2022年10月14日八尾の史師散策時に観察した植物

ハナミズキ(花水木)ミズキ科サンシュ属、別名アメリカヤマボウシ

北米原産、日本へは、1912年東京市長であった尾崎行雄がワシントンD.Cにサクラの 苗木100本贈った返礼として、1915年にハナミズキ60本(白花40本ピンク花20本) 贈られてきたのが最初である。その時のハナミズキは第2次世界大戦時に伐採されて 今では東京園芸高等学校により残っていない。ハナミズキの**名前の由来**=ミズキの仲 間で日本のミズキよりも美しく目立つので、別名のアメリカヤマボウシは日本の近縁 種ヤマボウシに似ているから、花弁に見えるのは総苞で中心の塊が花、花弁に見える 総苞の先が凹んでいる、日本のヤマボウシは先が尖っている。日本では街路樹や庭木



に使われ高さ5 mほどだが、原産地では12 mにもなる。*花言葉=永続性・返礼・私の愛を受けてください。

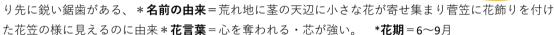
コメヒシバ(小雌日芝)イネ科メヒシバ属

人家の隅や道端の日陰に弱弱しく生えている、メヒシバに似ているが、茎も細くて 花穂が2~4又に分かれている、メヒシバは3~5又で茎も太い、この季節はアキ ノメヒシバが目立つ、背が高く群生している、コメヒシバは人家近くに生育している ので古い時代に日本に帰化したのではと言われるが不明。*花期=7~10月



アレチハナガサ(荒地花笠)クマツズラ科クマツズラ属

南アメリカ原産の多年草、1969年頃日本で見付かる、現在は関東以西に 広く分布、河川敷や空き地に第群落を作っている、特徴は茎が4陵(四角) 紫色の小さな花を穂状の上に多数つけている、葉は広線形、互生ではぼ半分よ





チドメグサ(血止草)ウコギ科チドメグサ属 花期 = $6\sim10$ 月

本州~沖縄に分布、道端や庭、溝の隙間などに生えている、茎は良く分枝して節からヒゲ根を 出して増える。葉は直径1 c mほど(環境により変わる)円形で掌状に浅く裂け、基部は心形 ふちに3~5個の鋸歯がある表面光沢がある、花は葉腋から1cm位の花柄を出し緑色の小さな花 を10数個固まって咲かせる。***名前の由来**=昔、葉を揉んで止血した所からの名。実際には効 果無いのでしない方が良い。***花言葉**=無い。(同じ仲間のオオチドメグサには正義の花言葉)



<u>ツメグサ(爪草)ナデシコ科ツメクサ属</u>

日本全国に分布、***名前の由来**=葉が鳥の爪のような形をしているから。また、葉の 形が切った爪に似ていることからの由来などある。生命力は強く道端やアスフアルト の割れ目や隙間に自生している。葉は細い線形、針状で先が尖る、茎は 根元で分枝して地を這い広がる、花は茎の先端に1個、白い5弁の花 を咲かせる、***花言葉**=小さな爪痕 +花期=3~7月



スズメノカタビラ(雀の帷子)イネ科イチゴツナギ属

名前の由来=カタビラとは着物の事です、穂が集まつて咲く姿が雀サイズ の着物に見立てたことから名付けられた。*花言葉=私を踏みつけないで 踏まれても踏まれても枯れない強靭な生命力がある、日本全国に分布し ている、様々な場所に自生、道端、庭、畑、空き地、など繁殖力が強い ことから厄介な雑草として嫌がられている、草丈は10~20cmほどで見た 目には葉は明るい緑色で平で線形、花は円錐花序に咲き白色で、目立たない、



その他、過去に紹介した多く有った野草。



アメリカセンダングサ

ツルヒメソバ







アキノエノコログサ メリケンカルガヤ アキメヒシバ